

【愛知県長久手市】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された『『令和の日本型教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』では、これからの「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現のために、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、各小中学校に整備したICT環境をどのように活用していくかが重要となっている。

本市では、平成31年3月に策定した長久手市教育振興基本計画において、将来のグローバル化や情報化社会を生きていく児童生徒が必要な「情報活用能力」の育成を図るために、ICT教育の推進を掲げている。

1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、児童生徒が自ら課題を発見し、課題解決に向け主体的・協働的に探究し、学びを深めていく教育の充実を目指している。

2. GIGA第1期の総括

本市はこれまで、令和2年度中に児童生徒への1人1台タブレット端末の配置及び校内LAN環境等を整備した。併せて全小中学校の普通教室に大型提示装置を含めた周辺機器等を配備するとともに、ICT支援員を月2回程度配置するなど、ICT環境の整備の充実を進めてきたところである。

また、令和2年度から学校代表を委員とするGIGAスクール構想検討部会を設置し、GIGAスクール構想の実現に向けた更なる整備と活用の検討を図り、検討結果に基づいた取組を実施している。その結果、ICT機器の有効な活用方法や学習場面での効果的な利用方法の促進が図られている。

授業では、児童生徒が自ら調べる場面や自らの考えを共有する場面で学習支援ツール「ミライシード」の活用が進み、個別最適な学びと協働的な学びに繋がっている。さらに、希望する不登校児童生徒に対して、オンライン授業を行い、1人1台端末を活用した学びの保障についても取組が進んでいる。

しかし一方で、1人1台端末を活用した学びの実践では、学校間や教員間で差が生じている。GIGA第2期では、児童生徒の学びの場面に応じた教員向けの研修を更に充実させるとともに、市内で優良事例を周知し、教員の意識と技能の向上を図ることとする。また、端末が故障した際に、修理まで長い時間がかかり、学びを止めることがあった。GIGA第2期では、十分な予備機を整備し、この課題を解決していくこととする。

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含め、端末を適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持すること、より効果的な運用を図り、児童生徒の学びを深めていくことを目指し、以下のように利活用していく。

(1) 「1人1台端末の積極的な活用」

授業や家庭学習、学校・家庭間の連絡等、様々な場面で更なる1人1台端末の活用を進める。さらに、教育委員会指導主事が各学校の個別の課題に応じた研修を実施するとともに、端末の積極的な活用に関する指導助言を行う。また、児童生徒の学びの場面に応じた教員向けの研修を更に充実させるとともに、市内で優良事例を周知し、教員の意識と技能の向上を図る。

令和7年度以降に、Google アカウントを児童生徒及び教員に1人1つずつ付与し、今後のクラウドサービスの活用の準備を行う。将来的にはクラウド活用による授業で、児童・生徒どうしの意見を集約・集計・可視化できるようになり、議論がより活発化することが期待される。

(2) 「個別最適・協働的な学びの充実」

児童生徒が1人1台端末を活用し、理解度や学習進度に合わせた個別最適な学びと「自分で調べ、自分の考えをまとめ、発表・表現する」「お互いに学び合う」協働的な学びが展開できるよう具体的な活用事例など、積極的な情報提供を行う。

(3) 「学びの保障」

不登校の児童生徒、障がいのある児童生徒等、特別な支援を要する児童生徒に対して、学習支援ツール等のICTを活用することで学びの場を提供し、学習機会の確保を図る。